

新しい公園の在り方を 現状調査し 要望に対応を



はまむら みか 議員
濱村 美香

問 町内には、観光係が管理している児童公園が8公園、地域住民課が管理している2公園がある。その管理の具体的方法と利用の現状は。

答 秋森産業推進室長

公園内の草刈り、清掃、トイレ清掃の管理については町民館や児童館、所在地の地区に委託している。高齢化や人員不足により維持管理が難しい地区については業者に委託し、町で管理している。

また、月1回、役場担当者が町内児童公園の巡回を行い、ゴミの清掃や危険物の点検をし、遊具については年1回専門業者が点検を実施している。利用の状況は、現代の子どもたちは室内で遊ぶことが多くなり、公園を走り回る姿を見ることは少なくなってきた。今後子どもから高齢者まで利用できる公園として維持管理を図りながら、存続や廃止についても検討していく必要がある。



令和5年3月に設置された複合遊具で遊ぶ親子
(6月25日、人工芝サッカー場西側)

問

健康づくりや世代を超えたつながりづくりの場として、公園の在り方も見直されている。

今後は、「共創」という新しい考え方に立ち、遊具整備や公園のない地区に新設する考えはないか。

答

秋森産業推進室長

今後人口減少も見込まれ、財政的にも厳しいなかで新たに公園を設置する計画はない。

答 松本町長

すでにある公園や廃校になったりしている運動場や集会所など既存の施設を有効活用していきたい。

人工芝サッカー場横にできた公園は町も7%負担している。今後、どのような遊具が必要か、古くなっているのか等、調査も必要であり、地区から要望があれば、必要に応じて対応していく。

ゴミ問題

負担金削減し 財源確保に 水切りや分別でゴミ減量を

問

幡多クリーンセンターに搬入するゴミの量は人口減に反して年々増え続け、ここ数年の負担金は1億円を超えている。ゴミを減らし、負担金を削減すれば、給食の無償化や18歳までの医療費無償化の財源確保などにつながるのではないか。

ゴミの減量に対する町の取り組みや見解を問う。

答

宮川住民課長

ごみの削減で負担金は軽減される。町としても今後、生ごみの水分量の削減など、持ち込み量の減量に取り組む。

また、リサイクル可能なものは分別し、環境配慮、処理の負担金軽減に向け、パンフレット配布や役場ホームページで周知、啓発に努めていく。



ゴミ削減のため古着も無料回収してリサイクルへ
(竹島 幡多中央環境センター)